



武庫川女子大学経営学部と株式会社「イロドリ」が 爪噛み癖に関する共同調査結果を公開しました

武庫川女子大学経営学部と株式会社「イロドリ」が爪を噛む癖について共同調査を行い、その結果を公開しました

武庫川女子大学経営学部では企業とコラボして課題解決に取り組む実践学習を積極的に取り入れています。子どもの爪噛み癖を改善するためのマニキュア「かむピタ」を販売する「イロドリ」が、商品の改善や、成人向けの爪噛み癖防止商品開発をめざし、学生たちにニーズの調査や提案を求め、2年生10人が取り組みました。

調査は6月の1か月間、Webアンケートとして実施。「武庫女ステーションキャンパス」に入居する銀行や企業、近隣のスーパーにQRコードを設置したり、SNS等で拡散したりして、4歳から80歳の男女517件から回答を得ました。

その結果、爪噛み癖の有無について「過去にあった」「現在もある」と答えた人は30・9%で3人に1人に爪噛み癖がみられました。爪噛み癖が始まったのは、小学校入学前が45.2%で最も多く、10人に1人は成人するまで癖が続いていました。また、半数近い人が「マニキュアや辛い物を塗る」「絆創膏を貼る」など、癖を直すために何らかの対策をしていることがわかりました。

経営学部の学生たちは調査結果から、爪噛み癖に対し、男性がほとんど対策をしていないことから、男性向けのシートタイプの商品や、女性の方が爪噛み癖が多く、爪が気になるという傾向が見られたことから、女性向けのスティックタイプの商品にニーズがあると考え、7月に「イロドリ」に提案。高い評価を得ました。

この件についてのお問い合わせは

武庫川女子大学 経営学部教授 高橋千枝子（メール） chietaka@mukogawa-u.ac.jp
までお願いします

なお、この共同調査結果の公開の話題は、「イロドリ」からも、メディアにリリースしています。

